

## 4. 河川

### 4.1 想定対象施設

山梨県内の主要河川を対象（ここでは平水時の河川幅が5メートル以上の河川を対象）とした。富士川、桂川、釜無川、笛吹川、日川、荒川、早川などである。



図 4-1 山梨県内の主な河川

## 4.2 想定方法

阪神・淡路大震災の淀川での堤防被害など過去の地震被害事例を見ても、河川堤防に大きな被害が発生しているのは液状化地域であるため、液状化危険度判定結果をもとに河川被害危険性について評価した。また、新潟県中越地震でも見られたように、斜面崩壊の影響を受けて河道閉塞が発生する可能性もあるため、急傾斜地崩壊危険箇所及び地すべり危険箇所の危険度判定結果をもとに評価した。

表 4-1 支障影響度の総合判定（河川）

判定基準	支障影響度
液状化	危険度大 被害可能性あり
急傾斜地崩壊危険箇所及び地すべり危険箇所	危険度 A 被害可能性あり

## 4.3 想定結果

県内の主要河川（平水時河川幅が5メートル以上の河川）を対象として影響可能性について想定を行った。想定結果を以下に示す。

- ・ 笛吹川流域では液状化による影響で河川堤防等に被害が発生する可能性がある。増水時と重なった場合には浸水被害などに発展する可能性がある。しかし、甲府盆地内の表層地質は液状化が発生する危険度が高いといっても、河口の埋立地のような大規模な液状化が発生する危険度は低く、河川堤防の被害もそれほどは大きくないと想定される。
- ・ また、都留市、身延町、南部町などの河川で斜面崩壊の影響を受けて河道閉塞が発生するなどの可能性がある。同じく、増水時と重なった場合には土石流に発展する危険性もある。
- ・ 過去の地震においては、宝永地震や安政東海地震の際に白鳥山（南部町；山梨・静岡県境）が崩壊し、富士川を堰き止め、決壊によって洪水が発生した事例がある。同様に、大雨時に危険な土石流危険渓流の集水域に大規模崩壊危険性の高い箇所があった場合、地震時土石流の危険性が高く、それらが川を堰き止めた場合に被害が発生する可能性が高い。また、過去に何度も発生した箇所は今後も危険性が高い。

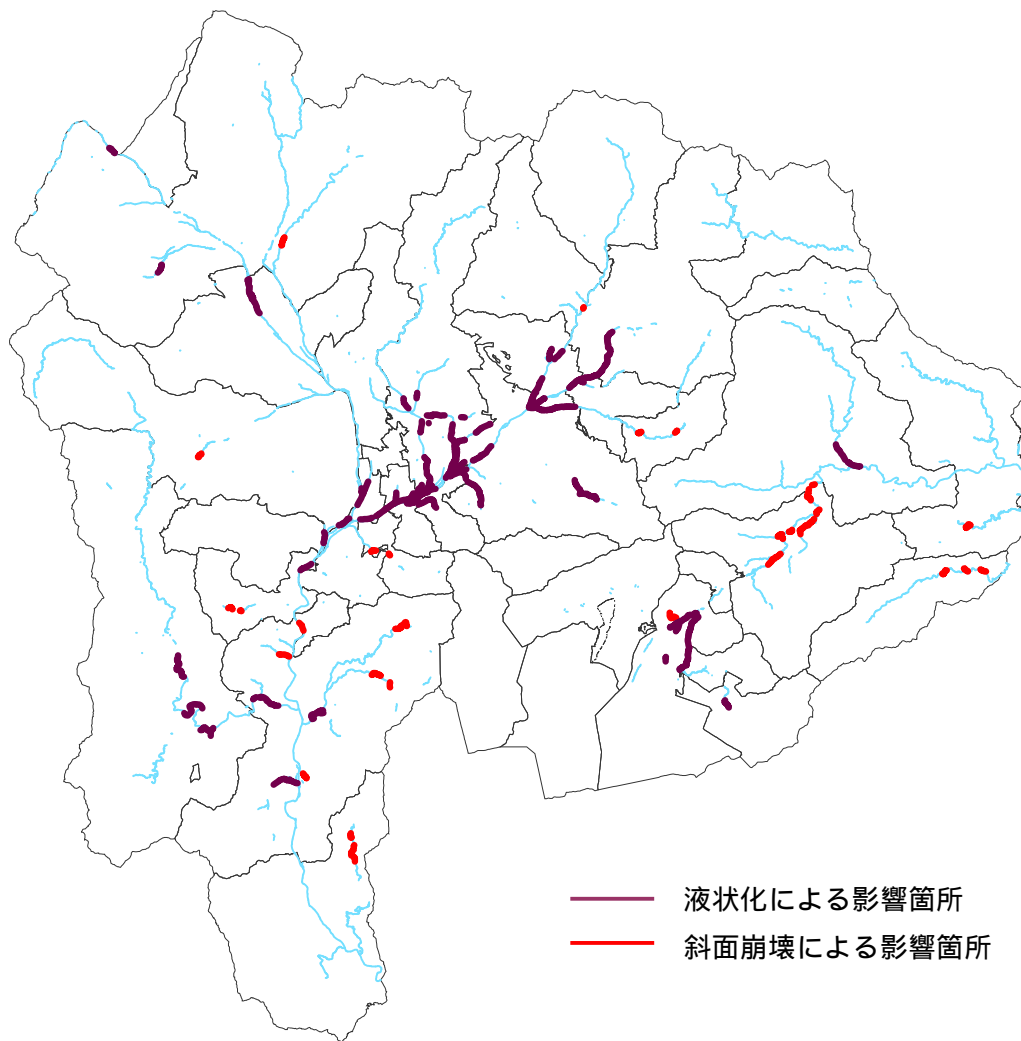


図 4-2 河川の想定結果（東海地震）